

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年9月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4672700137号
法人名	医療法人椎原会
事業所名	高齢者グループホーム椎原館
所在地	南九州市川辺町中山田1888番地 (電話) 0993-58-9391
自己評価作成日	平成23年6月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大正時代から地域の中核的医療機関であった医院の一部を改築し、グループホームとして利用している。入居者の方や地域の方にとっても昔馴染みの場所であり、現在も週1回の診療日には医院に来られた地域の方と入居者の方との交流の場所となっている。夏祭りなどホームの行事への地域の方の招待や、地域の幼稚園や保育園、部落行事への参加など地域との交流にも積極的に取り組んでいる。母体病院との連携を図りながら入居者の心身状態の把握に努め、家族との連絡も密に行いながら、入居者一人一人が安心して楽しく生活して頂けるようなケアに努めている。

旧川辺町の郊外に石垣に囲まれたレトロな佇まいの「椎原館」がある。広い敷地の庭の一角にはテラスがあり、大きなテーブルが置かれ、**気候**のいい時期は庭で食事をすることもある。ホームの夏祭りも行われており、近所の方や家族が多数訪れる大きなイベントで、毎年、小学生や高校生がボランティアで手伝いにきてくれる。また、大きなかまどもあり、利用者が采配をふるうちまき作りに活躍している。すぐ隣の保育園との交流も盛んで、子どもたちとふれあう、やさしい表情の利用者の写真がホームに飾られている。医療法人でもあり、健康管理が徹底されて、看護師の配置や定期的な医師の訪問診療、重度化や終末期に向けた連携体制等が話し合われて、家族の安心に繋がっている。開設して9年になるが開設当初からの利用者も数名いる。また、介護計画の中に、楽しみをもって生き生きと生活できるようにとの課題も設け、個々の楽しみごとをサービスに取り入れて、生きがいのある生活を送れるように支援している。利用者の笑顔が見れるように、本人・家族に「椎原館」で良かったと**言っ**てもらえるようなホームであるようにとの思いで日々のケアに邁進している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。理念は目に留まる場所に掲げており、職員は毎日必ずそれを読み返し、日々のケアに生かすように努めている。	理念に「地域のお茶の間を目指します」との文言があり、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念を作成している。職員は朝の申し送り時に理念を確認し、理念の共有と実践につなげている。理念は職員が常に目につく職員用トイレ・スタッフルームにも掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小組合（自治会）に加入しており地域行事や保育園・幼稚園などの行事にも招待を受け参加している。（夏祭り・敬老会・運動会・お遊戯会など）	隣接する保育園との交流が盛んで、双方の行事の参加などで子どもたちと交流する機会が多い。また、ホームの夏祭りの手伝いに毎年、小学生や高校生がボランティアで訪れてくれる。集落の十五夜や地域の夏祭りの見学などにも出かけている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	グループホームや認知症ケアについて理解して頂くために伝える技術を身に付け、地域の方々に向けての発信や貢献をしたいという思いはあるが実行には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービスの実施状況、自己評価や外部評価の報告し、参加メンバーからの質問や意見を受け、そこでの意見を運営に生かし、より良いサービス提供ができるよう取り組んでいる。	運営推進会議は自治会長、町議、老人会長、消防団員、行政、家族代表等の参加で2カ月に1回定期的に開催している。ホームの状況報告、行事報告などが行われている。	

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に市町村担当者に参加頂き、施設の実情やサービス提供についての報告を行い、運営などについての相談やアドバイスを頂いている。また、必要時には電話での報告や相談を行うようにしている。	日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するミーティングを行っており、自分たちのケアを振り返り、自覚のない身体拘束を行っていないかなど話し合っている。また、全ての職員が「身体拘束を絶対に行わない」という認識の下でケアに取り組んでいる。	法人の身体拘束廃止委員会のメンバーを中心に勉強会を行って、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。帰宅願望のある利用者については散歩やドライブなどで対応して日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施や研修会への参加により虐待について学び、施設内で起こることがないように職員相互に注意しながら、防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者については市町村担当者との連携を図りながら支援しているが、主に管理者が対応するため、他職員の制度についての周知は成されていない。		

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明を利用者、家族に丁寧に行い、不安や疑問などにも十分に説明を行い同意を得ている。利用者の状態変化による契約解除（退居）の場合にも本人、家族への説明や話し合いを行い理解・納得を頂くよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常の関わりや会話の中で、家族は面会時などに意見や要望など聞き取るようにし、出された意見などについては職員で検討し、運営に反映できるよう努めている。	利用料の支払いを窓口持参にしているためほとんどの家族とは面会時に意見や要望を聞き出すように努めている。また、利用者のホームでの様子が家族に良く分かるように「月間生活状況報告書」を毎月作成している。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員からのケアや業務を行う上での要望、意見などを随時聞くようにし、それら現場の声や状況の報告を行い、運営に反映されるよう努めている。	毎月のミーティングで意見交換や話し合いを行っている。利用者の身体状況に応じて勤務体制の変更など職員からの提案がスムーズな業務に結び付いている。レベルアップに向けた資格取得の支援も行っており、ホームで働きながら介護福祉士の資格を取得した職員も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者からの報告や、訪問時の職員との面談や職場状況の把握により、個々の職員がやりがいなど感じながら、安心して働けるよう職場環境の改善や整備に努めている。		

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部機関による研修会や法人内での勉強会、地区グループホームでの学習交流会への参加を図り、毎月のケアカンファレンスにでの研修報告により内容を共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム協議会などの研修会や地区のグループホームで開催する学習会への参加により、他事業所との交流や情報交換を行うことで、ホームのサービスの質の向上を図れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に家族や担当ケアマネに本人の心身状況や困っていることなど情報を収集し、必ず本人との面会も行い心配ごとや願いなどを伺い、本人の思いを受容し共感できる存在になれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時、これまでの経緯や今困っていることなど傾聴し、家族の思いを受け止め、介護での不安や心配ごとなど、安心して相談して頂ける関係になれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、心身状態など全スタッフが理解した上で必要なサービスの提供に努め、必要に応じて他事業所でのサービス利用の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人生活してこられた環境が違うので、生活暦や趣味などその方にあった活動を用意し、時にはアドバイスを頂きながら共に生活の中での活動など行なっている。		

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子だけでなく、家族や自宅への思いや不安な気持ちなども家族に伝えるようにし、面会や言葉掛けによる励ましなど、家族による支えも頂きながらの支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺までの外出時に知人の方を見かけたり、隣接する医院に知人の方が来られた時には本人に伝え、会話や面会など交流の機会が持てるよう努めている。	毎月、買い物と外食に出かけることが楽しみになっている利用者もいる。施設に入所している家族に定期的に会いにいけるように外出支援を行って、なじみの人や場との関係継続の支援を行っている。また、友人・知人を把握して、交流が途切れない様に支援に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の中で食事摂取の手伝いや声掛けなど、自然に助け合って生活されてる。入居者同士の関わりの中で不快な思いをされることがないよう、スタッフが入居者一人一人をフォローできるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別な施設や病院に移られた方の面会に行ったり、家族の方と街中でお会いした時など声を掛けたり、家族の方から声を掛けて下さり、近況を伺うなどしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	じっくり入居者に寄り添い、会話や動作などから希望や意向、思いを知る努力をしている。そのため常に思いやりの心を持ち、言葉使いや態度を反省することに努めるようにしている。	会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。食事のときや入浴時、お茶の時間などに良く話をしてくれるので、じっくり話を聞けるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、そして入居後も本人や家族との面談や生活の様子を通して、これまでの暮らしや生活暦の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解した上で、心身状態や言葉の変化を見逃さず、その時点での現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き、本人の状況を把握した上で、より良い生活のために必要なケアを介護職員にて検討し、介護計画の作成を行っている。必要に応じてケアカンファレンスにて現状や課題について話し合い、計画の見直しを行っている。	楽しみを持って生き生きとした生活ができるようにとの課題を設け、個々に楽しみごと（保育園児との交流・買い物と外食・家族との面会・ラジオ鑑賞など）を見つけ出し、継続できるようにサービスに取り入れて支援している。毎月モニタリングを行って、現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子やケアの実践を個別記録に記入し、職員間での情報共有やケアの反省をし、より良いケアの実践に繋がるよう努力している。記録の際には職員目線にならず、個々の介護計画に沿った記録となるよう注意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物支援や通院介助、他施設に入所されている家族への面会など、既存のサービスだけでなく本人や家族のニーズ。状況に応じて臨機応変なサービス提供に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの行事への地域の方の招待や地域の施設（保育園、小組合など）との交流、消防団との連携や学生ボランティアの協力の呼び掛けなど、機会あるごとに地域への参加に努め、地域の一員であり、支え協力し合って生活していることを感じて頂けるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの母体病院、協力医をかかりつけ医とすることを、入居時に本人と家族に説明し同意を得ている。また状態や希望に応じて他の医療機関も受診でき、通院介助への対応や支援も行っている。	法人の医療機関とは医療連携体制が図られており、家族の安心にも繋がっている。また、他科受診など本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや状態変化に常に気を付けており、異常があれば看護師の資格を有する職員が対応したり、週1回の在宅療養支援時や、必要に応じて母体病院に連絡をして看護師から指示をもらったり、訪問看護による支援を行っている。		

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人の心身状況や生活状況、支援方法などの情報を提供しており、入院後も面会を行い病院スタッフとの情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段より本人や家族の意向を聞くようにし、心身状態や疾病の悪化などあった時には家族との話し合いや主治医への相談を行いながら、本人に必要なケアの情報を共有し、提供できるように取り組んでいる。	重度化や終末期に向けたホームの方針は法人の医療機関と連携を図りながら支援に取り組む方向性が話し合われている。職員も方針は共有している。家族には口頭で説明を行って同意してもらっているが記録に残していない。	昨年からの取り組みとして一定の方針は定まってきたが、文書化までは至っておらず、口頭での説明にとどまっている。関係者の話し合いを記録を残すなど、今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半年に1回消防署の指導の下、応急処置や救急蘇生法など学んでいる。また初期対応に不安を持っている職員には、経験者や看護師が助言や指導をしている。		

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、日中と夜間を想定した避難訓練を年2回、全入居者と職員の参加にて行っている。終了後には消防からの助言を頂き、それを参考に改善している。近隣に住む母体病院スタッフへの避難支援の依頼など、地域への協力体制作りにも努めている。	職員一人ひとりが夜勤担当になり、時間を計るなど現実的な訓練を行っている。スプリンクラー工事也开始する予定になっており、通報装置も設置されている。運営推進会議のメンバーに消防団員もおり、協力体制が話し合われている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者に応じた言葉掛けや接遇を行うようにし、言葉使い、大きな声を出さず同じ目線で対面して話すことなど気を付けている。	個々に応じた声かけや否定的な会話にならないように配慮しながら対応している。ミーティングなどを利用して意見交換や勉強会など行い、資質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いや希望を表出しやすいような言葉掛けなど心掛けている。また食事や行事(誕生会や外食、買い物など)の際には好みの物を選び決めて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は(食事の場合によっては個人の時間で)、居室での読書やラジオ視聴、ホールでのテレビ鑑賞など、一人一人好きなように過ごして頂いている。希望時には、ドライブや散歩による気分転換も図れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出や行事の際には、本人と一緒に外出着の準備や整容を行うようにしている。月1回の出張理容では、本人の希望に添っての整髪を行うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや配膳、下膳や食後の茶碗洗いなど、本人の能力や希望に添って行って頂いている。職員も同じテーブルで食事を摂り、会話などしながら楽しく食事ができる雰囲気作りに努めている。	個々の力量に応じて出来ることは無理強いしないように配慮しながら職員と共に行っている。梅干し作り・餅つき・ちまき作りなど利用者から教わりながら一緒にしている。本人の希望による外食支援や全員で花見を兼ねて外食を楽しむこともある。また、気候がいいときは気分を変えて、外のテラスで食事をすることもある。	

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事形態や量で用意し、摂取が進まない時には好みの物や飲食したい物を用意するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な入居者の方の口腔ケアや義歯洗浄は行っているが、自分でできる方には声掛けのみで、口腔内の状態やケア後の確認が行われていない。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意のない入居者の方には定時でのトイレ誘導を行い、トイレでの排泄に取り組むなど、一人一人の排泄パターンを理解し、個々に応じた自立した排泄ができるよう心掛けている。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、排せつの自立に向けた支援を行っている。ほとんどの利用者が自立しているので職員は声かけ誘導と見守りで支援している。ホームに入居してからトイレでの排せつが可能になった利用者もいる。現在、昼夜間共おむつ使用の利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックにより一人一人の排便状態の把握に努め、食事の工夫や適度な水分摂取により自然排便ができるよう取り組んでいる。どうしても自力排便が困難な方には、主治医に相談の下、下剤服用での排便コントロールを行い便秘の予防に努めている。		

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者の体調や、一人一人の希望の合わせて入浴の声掛けや支援を行っている。入浴を拒む方については、時間をおいて声を掛けてみたり、職員が交替して声を掛けるなどしている。	希望があれば毎日の入浴も可能で個々に応じた入浴を支援している。自立している利用者もあり、職員の見守り介助で安心して入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	洗濯物仕分けなどの家事、庭に出るの草取りや散歩など日中の活動を促し、臥床時間を短くできるよう心掛けている。夜間眠れない時にはスタッフと会話しながら時間を過ごすなど、安心して休んで頂けるような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成したり、薬の処方に変更があった時には支援経過に記録するなど、全職員が内服について理解できるようにしている。一人一人の心身状況を把握し、主治医との連携を図りながらの服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦や能力に応じての毎日の家事や、季節ごとのちまき作りや餅つきなど、今までの経験や知識を生かしながら活動することで、役割を持って楽しく生活できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や美容室、他施設に入所されている家族への面会など、希望に応じての外出支援を行っている。地域やホームでの行事での外出時には家族へも連絡し、できる家族については参加して頂き、一緒に外出を楽しむ機会を持てるよう支援している。	日常的には散歩やドライブ、買い物同行、隣の保育園に遊びに行くなどして外出を支援している。また、個々の希望に応じて買い物と外食・面会などの外出を支援している。季節ごとの花見や一日遠足などにも出かけることもある。	

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にてお金を管理させて頂くが、家族の了解・協力の下、少額ではあるが自己にて所持されている方もいる。外出の際には本人に所持して頂き、支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や知人などからの手紙が届いたら本人に渡し、希望があれば音読や返事の代筆をしている。電話の希望時もダイヤル介助や、難聴の方には通話介助を行い、ゆっくり会話できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう昼間は自然光を取り入れたり、ホールや廊下の壁面の飾り、玄関に飾る花や庭に植える花を四季ごとに変えている。また適度な音量でのテレビの音や調理の音、人の話し声がすることで家庭的な生活感のある、落ち着いて過ごせる環境作りに努めている。	共用空間は狭すぎず、広すぎずと職員の目が行き届くスペースである。廊下が広く、縦長の作りのため、ホーム内の移動でも程よい運動量が確保できる。レトロな雰囲気心が心地良く感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に畳椅子を設置し、一人でゆっくり腰掛けたり、入居者同士の会話に場所となるようしている。ホールでの座席も、会話のはずむ入居者同士を隣にするなどの配慮を行っている。		

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や届いた手紙を飾ったり、自宅で使用していた馴染みのある家具や小物、家族との思い出の品を置くことで、自宅の生活を感じられる居室作りを工夫している。	入居の際に使い慣れたものやなじみの物品を持ち込んでもらえるように、家族に説明している。タンス、ラジオ、人形、小物などが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動作が安全に自立して行えるよう、心身状況に応じて居室内のベッドやポータブルトイレの位置を決めている。またトイレや居室が分からない方には表示を工夫したり、安全な歩行や生活動作の妨げにならないよう、生活動線の整理整頓にも努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 高齢者グループホーム椎原館

66	職員は，生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない